

ホーム名：グループホームはるすのお家・阪南		ききょう		
自己評価	外部評価	自己評価		外部評価
		項目	実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ユニット内に掲示しスタッフ全員で実践につなげるよう努めている</p>	<p>理念の主旨には明るさや楽しさが表現されており皆の家を連想させるものがある。理念の掲示板は玄関入口と各ユニットの壁に貼付されており職員一同の支援方針として謳われている。</p> <p>理念の表示文字を印刷体から手書きの文字にされてはどうか。ホームの精神がより活かされ訪問者にもより深い印象を与えるものと思われる。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、廃品回収など交流している。地域の住民の方とは一部の方のみとの交流となっている</p>	<p>地域密着という認識を踏まえて2年前から自治会に加入している。近隣の清掃や廃品の回収も手掛けている。秋祭りには青年団の組んだやぐらがホームの前まで来て祝賀してくれる。また市内の認知症カフェや図書館の利用も念頭に置いている。</p> <p>ホームも社会資源の一つであり互いの立場から利用し合うのも有益である。ホームの考えている認知症相談受け入れの案は是非実現されて頂きたい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の啓発活動や相談の受け入れなど実践できるよう努力したい</p>	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月毎に開催をし、ホームの報告をし、行政・家族様からの意見などを聞き、サービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回約1時間開催している。市役所担当者、地域包括支援センター担当者、自治会の方、家族3、4名が参加しているが出席家族は同じメンバーになりがちである。内容は毎月の職員研修、事故報告等で質疑応答も行っている。</p> <p>運営推進会議の案内は家族に送付しているが議事録も送付することによって運営状況の報告となり、また新たな家族の出席を促す可能性もある。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>定期的に市役所に出向き、会議に参加し顔の見える関係性を築いている</p>	<p>管理者が市役所の依頼により市民対象のイベントでグループホームについて発表したりしている。後見人、生活保護、高額医療等の問題についての家族からの相談を市町村及び地域包括センターの窓口につないでいる。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束禁止委員会を設置し、定期的に会議を開催している。また、研修を通じて一人ひとりのケアの見直しなどをし、ケアに活かしている</p>	<p>身体拘束禁止委員会のメンバーは管理者、ユニットリーダー、指名した職員であり、3か月に1度会議を行っている。身体拘束ゼロに向けて事例を振り返りケアを見直している。ベッド柵も変更した。センサーは骨折をした人のみ2名使用している。やむを得ない場合ミトンを睡眠時に使用したこともあるが全て必要がなくなった時点で外す考えである。</p> <p>入居者の自由を守る支援が基本であるがその分、リスク上の問題も生じやすい。職員の見守り支援が重要であり、これ等の要素を包括した新たな研修を策定されるよう期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を通じて、ケアの見直し、またストレスケアにも気を配っている</p>	/

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用する方がいる為、学ぶ機会も増え理解を深める事が出来ている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、不安のないように努めている また、質問についても適切に答えられるようにしている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などや来設時にご家族様と話す時間を大切にしている 意見要望などの共有をしている</p>	<p>家族の訪問時には意見や要望などを聞き職員の連絡ノートに記入して職員間で共有を図っている。管理者は採択できる要素をよく考慮し運営に反映できるように努めている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフの意見や提案などは日頃から聞き、働きやすい職場を目指している</p>	<p>ミーティングは毎日行っていないが気づきは管理者、職員全員が連絡ノートに記入して周知している。職員は管理者に直接提案できる風通しの良い雰囲気である。月1回ユニットのミーティングがあり研修及びケアカンファレンスが行われている。</p>	<p>管理者は正社員やパートの職員と共に自由闊達に意見を述べ合っている。この態勢の維持継続を図られスキルアップに繋げて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の状態を把握し、労働時間や給与など向上心を持って働けるように人事考課を行っている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修への参加は出来ていない、内部研修の充実を図っている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>相互訪問など検討しているが、取り組めていないので早急に取り組んでいきたい</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活に近づけられるよう情報収集、またはコミュニケーションにより安心した生活となるよう努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様とのコミュニケーションを大切にし、不安や要望を聞き、入居者様同様に良い関係となるよう努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前にご家族様からの情報収集や入居者様とも良く話しをし必要なサービスにつなげている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的で温かな雰囲気を作る事をスタッフ一人ひとりが心掛けている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様の協力も大切となるので良い関係となるよう努めている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>関係が途切れない様に努めているが、なかなか実践は難しい</p>	<p>近所の商店やスーパーに出掛けるようにしている。ご近所や学生時代の友人が訪ねてきたり、手紙のやり取りを行っている利用者もいる。公民館の認知症カフェや図書館に行ってみたい気持ちがあるが利用者が外で知人に出会うことを快く思わない家族が過去にいたので一歩踏み出せていない。</p>	<p>入所時や運営推進会議議事録で認知症カフェに行くことを全家族に周知して、認知症カフェなどに出かけることを勧める。認知症の人に対する認識は以前とは変化してきている。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自由に交流できる雰囲気作りに努めている またスタッフが間に入り関係作りにも努めている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後の関係性は遠のいてしまいが努力はしていきたい</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意に沿った生活が出来るようケアにつなげている	一人ひとり考え方が違うことを理解し、また今までの生活やかかわりを大切にして本人の好き嫌いを見極めるようにしている。言葉だけでなく表情を読み取るようにしている。スタッフが時には座って話す時間がある。気づいたことは連絡ノートで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	コミュニケーションを通じて生活歴などを把握しホームでの生活に活かすよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい1日を過ごしていただけるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族様の意見・要望を踏まえてケアプランの作成に努めている	ケアプランは6か月毎、短期プランは3か月毎、モニタリング表は1か月毎に作成している。家族に送付して同意を得ている。医療的処置についても連絡ノートに詳細に記入し、情報共有している。また入退院時等の管理者、医者、家族、ケアマネを交えた話し合いもサービス担当者会議議事録として情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録・往診・訪問看護など情報共有をしケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を把握し、必要なサービスにつなげるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまり出ていない より良い暮らしの為に活用していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様・本人様の希望に添った適切な医療が受けられるように支援している	家族が入所前からのかかりつけ医を主治医として要望している場合は家族の同行のもとでの受診を願っている。現状では4名の入居者がかかりつけ医の受診を行っている。他はホームの協力医である「さくらクリニック」から月2回の往診を受けている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護師への報告・相談などが適切に行え良い関係作りが出来る</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の情報提供を大切にしている。また早期に退院出来るよう病院関係者とも顔の見える関係づくりに努めている</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態が変化するたびにご家族様との時間を取り、要望を伺う。またホームで出来る事出来ないことなどを伝え、終末期も安心して生活ができるよう支援している</p>	<p>入居時は口頭での説明のみである。状態の変化に応じて終末期の医療についての事前確認を家族と行う。その後主治医の判断で看取り介護についての同意書にサインしてもらう。現在看取り希望は5名である。訪問看護ステーションと協力医療機関が24時間対応である。</p>	<p>家族だけではなく終末期の介護に不慣れな職員に対しても十分な説明、話し合いの継続が望まれる。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時・事故時などの対応について研修や日頃からのコミュニケーションを踏まえ実践につなげている</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行い、様々な災害を想定し備蓄品などを揃えている地域の協力体制がまだまだ足りていない</p>	<p>避難訓練は年2回実施している。消防署の立ち合いで指導を受けた訓練をもとに自主訓練もしている。緊急時には通報と消火、そして救出の順をよくわかまえている。避難場所は周辺が広く特に心配はない。IIH器具の使用や消火器の設置も有り、非常用の備蓄も完備されている。</p>	<p>避難者の写真つきリストと避難者の名前や血液型等情報を記入した粘着性のシートを作成しておいて、避難時に利用者の腕に貼って迅速で正確な点呼ができるようにされたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関係作りを大切にし、言葉遣いや一人ひとりに合ったケアを心がけている	話し掛け方や名前呼び方、トイレ誘導も全て入居者の立場に立って寄り添う心が人格の尊重とプライバシーの確保に繋がるものと考えられている。マニュアル的な指導はされていないが職員の人格的意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを大切にし、本人様の意向を引き出せるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身の生活リズムを大切に生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用や、洋服なども自身で選択し楽しまれている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バリエーションのある食事を提供し、職員も一緒に楽しい時間となるよう心がけている	各職員がメニューを1週間前に決定し調理する。2日に1回ユニットでずらして買い物に行き利用者が同行することもある。メニューは豊富で季節の料理、行事食にも力を入れている。利用者は片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	水分量の把握に努め脱水にならないように努めている 食事量も一人ひとりに合った提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を把握し口腔ケアの声掛けに努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりに合った排泄の対応を心掛けている 排泄の習慣の把握も心掛けている	見守りと排泄チェック表で対応している。寝たきりの人は紙おむつを使用するが、他の利用者は本人の状態によって布パンツ、リハビリパンツを使い分けている。	簡単な運動習慣により自然排泄を促すようにされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や牛乳などの取り入れ、また必要に応じ主治医に相談している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に添えない事もあるが、ゆっくりと入浴していただけるよう心掛けている	入浴は一人週に2、3回の割合で実施されている。湯の入れ替えはその都度行われている。入浴が困難な状態の方や拒まれる方には清拭を行う事で清潔さを維持されている。ゆっくり時間をかけて湯につかってもらう事により入浴の楽しさを味わってもらうようにしている。	入浴を拒まれる入居者には何らかの理由があるものと考えられる。深層の心理を求められ対応策を考えられてはいかがだろうか。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>室温等を気に掛け、夜間だけでなく日中も良い空間となるよう気を配っている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬情報をいつでも把握できるようにしている また薬剤師とも良い関係が作れている</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>行事に参加していただいたり、また、得意なことはスタッフも教えてもらえるよう楽しい時間となるようにしている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ご家族様の協力も得て、希望の外出が出来るよう努力している</p>	<p>日課ではないが暖かくなれば2、3日に1回近所や庭先に出る。庭にはベンチも置かれている。全員ではないが近所によろずやスーパーに行くこともある。季節のよい頃にはお花見や神社に出かけたりするが個人の希望に合わせた外出は難しい現状である。</p>	<p>外界と触れ合う事で精神面での活性化を促す事にもなる。花見や外食などの時には家族の協力を求められ外出支援の実施をお願いしたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々での管理は難しいが、欲しいものがあれば買い物に出かけ支払いをするなどの対応をしている</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>切手等を準備し希望があれば対応出来るようにしている</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は清潔に保ち、気持ちよくすごしていただけるよう努めている 壁飾りなどは季節感を大切にしている</p>	<p>共有空間は職員や入居者が一緒に寛げる楽しい公共の場といった雰囲気がある。キッチンの料理風景が見えるのも楽しい。また共有空間に和室があるので日本的な落ち着きも感じられる。</p>	<p>入居者が楽しめるような写真入りや絵の多い本などを多数置かれてはどうか。本は家族や自治会を通して寄付を求める方法もある。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ダイニングやソファなど過ごせる場所作りをしている</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある物を持参してもらい居室作りをして頂いており、個々の生活があふれている居室作りが出来ている</p>	<p>居室は家族に家にある物を持ってきてもらうようにしている。時計とカレンダーは必ず飾るようにしている。居室の掃除は利用者本人が手伝ってくれる。枕カバー・シーツの交換は週1回程度行っている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・お風呂などの掲示、また廊下には危険な物を置かないように配慮している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない